

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100572		
法人名	鳥取県厚生事業団		
事業所名	認知症グループホーム くつろぎ		
所在地	鳥取県鳥取市伏野2259-17		
自己評価作成日	令和7年 10月 31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3190100572-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和7年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさが生活の中で活かされるよう、一人ひとりの個性や思いを大切にしたい支援、住みやすさに重点をおいています。自分の意思や選択性で生活を楽しむ事が出来る入居者中心にこだわっています。また、入居者とともに過ごし支え合うご家族や馴染みの人や場所との関係も大切にしています。ご家族参加の行事を毎月企画し、一緒に楽しみ、くつろぎをより知って頂ける機会を設けています。面会も外出も時間、人数など制限を設けず自由な面会としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット9名の平屋建てのグループホームです。利用者と職員がゆったりと向き合って話をされる時間を持たれ、一人ひとりの利用者の意思を汲み取れる寄り添う介護を心掛けておられます。地域社会との関わりも大切にされており、演芸ボランティアの方々やベビーサークルの赤ちゃんとの交流も定期的に行なわれ、公民館へ利用者さんが作られた作品を出展され見学にも出掛けられています。家族との面会や外出も自由に行われており、家族も参加して頂ける行事を企画されたり、毎月の「くつろぎだより」を送られグループホームの様子を知って頂く事で、家族との信頼関係も深まっておられます。食事は基本的に手作りで提供されており、可能な利用者の方には、一緒に食事の準備や盛り付け、洗い物等、して頂き自分の役割と人の為に役に立っているという自信につながるサポート支援が行われています。利用者の方の好みのメニュー、季節の料理、行事食の提供が行われています。職員は研修の機会も多くあり、チームケアに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・基本方針を職員会議で周知、その人らしい生活に視点をおき、自らが日常生活の中で「できること」を大切に支援の実践に努めている。一人ひとりの尊厳と意思を大切にしたり関わり方により自主性に繋げている。	職員会議で振り返りを行い、理念を共有され、利用者のやりたいことや思いを汲み取れる支援が行えるよう心掛けておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館に作品を出展し、作品展示会に参加している。近隣の喫茶を活用したり、ボランティアの方に多く来て頂きながら社会との繋がりに努めている。	地域の公民館に作品を出展され、見学にも出掛けられました。近隣の喫茶店にも出掛けられています。また、ボランティアの方も沢山来られ、2ヶ月に1回ベビーサークルの赤ちゃんとの交流も行われています。利用者の笑顔が多く見られる場面があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周辺地域の独居認知症高齢者の受入れ。特に生命の安全確保を必要とする多くの問題を抱えている方の受入れなど協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	鳥取市、湖東包括支援センターなど出席をして頂き、困難ケースの相談など運営推進会議を通じて、一緒に考える機会にも活用している。運営推進会議の中で身体拘束適正化委員会報告も行い、身体拘束が行われていない報告の場としても活用している。	2ヶ月に1度運営推進会議は開催されています。市役所、包括支援センター職員、地域から民生委員、区長、利用者及び家族の代表、知見者として他の施設の職員など多様なメンバーが参加されています。困難事例の検討の場としても活用されました。活動の様子が分かりやすいようにパワーポイントで見てもらわれ、意見ももらい参考にされています。	例えば昼食試食会を行い食後の様子を見て頂かれたり、施設内の設備を確認して頂いたり、避難訓練の様子を見て頂く機会を設けて運営推進会議の委員より意見を頂きサービス向上に活かされる事も良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議では、活動報告、入居者の生活状況、課題、身体拘束の有無などについて報告し意見を頂き参考にしています。	2ヶ月に1度の運営推進会議に委員として参加して頂き、現状のホームの状況を報告し意見をもらわれています。困難事例の相談等も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月職員会議で身体拘束の有無について確認を行っている。その報告を運営推進会議で行う仕組みが整っている。職員の研修会の実施。施設的环境についてはオープンで玄関は遅番職員一人になる19時に戸締まりをしている	毎月職員会議で身体拘束の有無について確認が行われており、2ヶ月に1回の運営推進会議にて身体拘束適正化委員会の報告を行う仕組みが整備されています。職員の研修会の実施されています。お互いの信頼関係を築き、安心してケアが受けれるよう努めておられます。日中は玄関は施錠はなく遅番職員一人になる19時に戸締まりが行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止研修会の実施 ・虐待防止アンケートの実施 ・虐待の芽チェックの実施 ・日々のケアの中で感じた事があれば、その場で「それは・・・」が気軽に言えるようになると職員会議で伝えている。	3ヶ月に1度虐待防止委員会が開催されています。虐待防止研修会・虐待防止アンケート・虐待の芽チェックリストを実施されています。日頃から不適切な言葉遣いや声掛け、行動があったら、お互いに注意がしやすい風通しの職場になるよう職員会議でも話されています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において、権利擁護や成年後見制度について資料を添付し説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入所契約時に時間を掛けて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月入居者との話し合いを設け、困りごとなど意見や要望を聞き取っている。意見箱の設置や家族面会時には生活の様子を伝えるなど話しやすい関係作りに努めている。 運営推進会議での報告 プライバシーに配慮しつつ施設内の掲示による意見のオープン化	毎月利用者の話し合いの場を設け、困り事等、意見や要望の聞き取りが行われています。意見箱の設置や家族面会時に家族に確認しておられます。毎月送られる「くつろぎだより」に意見や要望を何う用紙を同封され意見をもらう機会が設けられています。また、プラン見直しの際にも意見・要望を聞かれています。頂いた意見は職員会議で話し合い、運営推進会議、苦情解決委員会で改善策を含め報告、助言・指導を頂き、プライバシーに配慮しつつホーム内に掲示されます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議での意見交換 ・情報共有帳や日誌の活用 ・常に全員と会話し意見が聞ける環境に努めている。	1ユニットのグループホームですので、職員同士顔の見える風通しの良い職場環境になっています。毎月の職員会議で意見交換をされたり、情報共有帳や日誌も活用され、管理者は面談もされ、職員全員の意見が聞けるよう努めておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・処遇改善計画の提示及び会議での説明 ・安全衛生委員会参加による職場環境改善 ・委員会、係など積極的な活動に繋がるサポート支援 	法人の就業規則、給与規定が設けられており、処遇改善計画の提示や説明も行われ、個別面談による一人ひとりの職員の目標や課題を確認し、チームで行なうケアを目指しておられます。ストレスチェックを行い安全衛生委員会に参加され職場環境改善も行われています。また、生産性向上については眠りスキャンを導入されており、ソフトを使ったタブレット入力による記録も実施され、職員の負担軽減に活かされています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修の実施 ・配信研修による自由な自己研修 	個人面談を実施され職員の目標や研修希望の聞き取りを行い、職員一人ひとりに研修計画が立てられています。また、法人としての必須研修も実施されています。それぞれの職員が委員会に入っておられ、自己研鑽を行っておられます。配信研修を活用され、多様な種類の研修を受講され、研修後には感想文も書かれています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市主催の認知症フォーラム参加 ・湖東地域包括支援センター「認知症勉強会」毎月開催される勉強会に参加 ・運営推進会議 湖山包括支援センター、GHIはまさかなどの参加により情報を共有 ・GHIいくのさん家、GHIはまさかの運営推進会議への参加 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所前情報、入所時の本人・ご家族からの情報によるアセスメント ・環境変化による不安を取り除く会話や居場所づくり ・自分らしい生活リズムの定着、くつろぎにはルールが無いことを感じて頂ける1日の過ごし方に努める。 ・生活の特徴をつかみ、困りごとや不安、要望に気がつく。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所し家族と離れる不安への理解 ・くつろぎでの生活の見える化で安心に繋げる ・職員と話しやすい雰囲気作りに努め、双方が情報を共有できるようにしている。 ・職員からの積極的な話しかけ 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前情報や入所時の課題の把握 ・話しやすい会話から課題を抽出 ・アセスメントの充実		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・できること、できないことを見極め、自信が持てる支援に繋げている。 ・尊厳を大切にした支援 ・ポジティブな感情に重点をおいた支援 ・快の感情が長く継続する支援→居心地の良さ		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・自由な面会 時間、人数特に制限は設けていない ・こまめな情報の提供、共有 ・毎月家族と一緒に楽しむ事が出来る行事の内容を企画し案内 ・運営推進会議への自由な参加 ・家族の不安を気軽に言える関係性づくり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族、親戚、知人などの自由な面会 知人などは家族の制限が無ければ、受入れ可能 ・家族との自由な外出	家族や本人の希望にわせて自宅への一時帰宅、かかりつけ医の継続、現在は家族との自由な面会や外出が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や嗜好、性格等関係性を考慮したりリビングでの座席設定 集団に入りづらい人は、職員が多く関われる位置に席を設け孤立しない環境を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約解除後も相談に乗れる体制はある 家族にも伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思決定を大切にしている 自由な暮らし方、その人らしい暮らし方を支援し、集団的な生活にしないことを基本としている	利用者一人ひとりの思いを大切にしておられます。表出して頂けるよう毎日会話をされ、その中から思いを汲み取れるよう心掛けておられます。	本人の生きがいにつながるような目標設定が出来るようされると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の暮らしの情報をもとに、行動一つひとつをその人らしさと理解し、その生活の仕方を尊重したサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の生活スタイルとして、できること、したいこと、サポートを必要とすることなど記録し暮らし方の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度職員会議で、現在の生活の様子から課題への支援方法や現在の生活が維持できる支援方法、楽しみの持てる企画の提案など話し合い、介護計画に繋がる情報共有の場を設けている。	毎月のモニタリング、3ヶ月毎にミニカンファレンス、半年ごとに見直しが行われています。担当職員から自分の担当の利用者について計画作成者は報告してもらい、一緒に素案作りを行い、家族・利用者の意見も伺い、原案が作られ他の職員の意見も聞き、本案を決定されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・24時間軸で生活の様子。ケアの実践を記録し情報を共有している ・サービスの実践記録やケース記録、担当者が職員会議(毎月)で伝える個々の様子などから介護計画の見直しに繋げている	24時間シートを活用され生活の様子を記録され、ケアの実践も記録し情報を共有されています。サービスの実践記録やケース記録、担当者が職員会議(毎月)で伝える個々の様子などから介護計画の見直しに繋げておられます。最終的に画面上で介護計画を確認され、特に留意が必要なことは伝えられています。計画の見直しの為にも記録の振り返りが行われています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・マツサーン業者など家族や本人のニーズに合わせてサービスを受けることの出来る環境を提供している ・家族の宿泊などの際は、食事提供(要食事代)など柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地区公民館祭、移動図書館、喫茶、移動スーパーなどを利用し社会との繋がりを大切にしている ・作品作りや本を読むことの継続やお金を支払うなど出来る事の継続を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月2回かかりつけ医の往診あり、中には入所前のかかりつけ医を希望される方もあり、地域との繋がりを継続されている。その際は、日常の様子や病状の症状の変化など記録したものを情報提供書として渡している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医を選んで頂いています。毎月2回協力医の往診があり、入所前のかかりつけ医を継続して希望される方もあり、その際は、日常の様子や病状の症状の変化等を記録した情報提供書を渡されています。歯科受診も必要時には協力医による往診が可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報を看護師と共有し、かかりつけ医診察の必要性があれば相談し指示を仰いでいる。介護員、看護師、かかりつけ医は常に連携している関係性にある。かかりつけ医に相談し往診の必要性があれば、直ちに来所し診察して貰える環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、病院の地域連携室と病状について情報の共有を図っている。1週間に1度は様子の連絡を入れている。 ・回復状況 ・家族への説明内容 ・医師の治療方針 ・退院に向けての準備 ・退所に向けての家族、医師、施設との意見の調整 ・退院後の生活の仕方について など	入院時には、病院の地域連携室と病状について情報の共有が図られています。1週間に1度は様子の連絡を入れ、回復状況、家族への説明内容、医師の治療方針、退院に向けての準備、退院カンファレンスもあり、退院後の生活の注意点等伺われています。また、長期入院になった場合に退所となる状況について医療機関、家族と情報共有され利用者が困られないよう対応されています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合などくつろぎでの生活環境に無理が生じた場合は、家族にくつろぎの設備の制限や特養の介護環境など説明し、家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。できる限り環境を変えたくないという希望のある場合は、できる限りくつろぎで生活して頂く支援を行っている。くつろぎの設備にないものは、近隣の特養の協力を受けながら生活の継続に繋げている。	利用開始契約時には事前に意向確認をされ、重度化終末期の方針の説明をされ、同意を得ておられます。重度化が進んできた状況で、家族、かかりつけ医、ホーム職員で話し合わせ、状況に応じて病院、特養という選択肢も提示されますが、できるだけ環境を変えたくないという希望があればホームで生活して頂くよう支援されています。設備面で必要な物は近隣の特養の協力を受けて対応されています。特養での看取り経験のある職員もあり、看取り研修は特養で受けておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時訓練(救急車要請訓練)、心肺蘇生法訓練など 急変時に備えて研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の施設と合同で避難訓練を実施し、くつろぎの入居者の介護状況や方法を理解してもらっている。	敷地内の同一法人福祉施設と合同で火災想定訓練を実施されており、単独での緊急通報訓練、夜間想定避難訓練も実施され、BCPの策定も行われています。想定外の自然災害は起こりにくい立地条件ですが、備蓄の食料も賞味期限を点検、更新されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの一言を大切に、その時々感情の変化に気を配るように努めている ・自尊心を傷つけない態度や声かけを大切にしている	接遇研修をはじめとし、法令遵守、人権、プライバシーに関する研修は年間通して行われており、一人ひとりの一言を大切に、その時々感情の変化に気を配るように努めておられます。また、できることは自分で頂くようにしておられます。自尊心を傷つけない態度や声掛けを大切にされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の意思を確認しながら行動を支援している。声かけは、一人ひとりに合わせた意思の表現しやすい声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位の支援に心がけ、一人ひとりの性格、好みに合わせた本人スタイルの生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その日、その時に何を着るか本人の意思を確認し支援している ・毎日の組み合わせ、セットがルーティン化しないよう気を付け、その人らしいおしゃれや身だしなみになるよう心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・できる能力に合わせ、興味のあるもの、ないものの把握による声かけ ・意欲的な行動に繋がる声かけ ・一緒に行動し見ながら思い出すことでプライドを大切にす支援 ・自分の役割と人の役に立っているという自信に繋がるサポート支援	食事は基本手作りで提供されており、一緒に食事の準備や盛り付け、洗い物等、本人の能力に合わせ、興味のある物、ない物を把握され、声掛けをされています。自分の役割と人の役に立っているという自信と意欲的な行動に繋がるよう支援されています。利用者の嗜好を伺われ、手作りおやつや季節感のあるメニュー、行事食の提供も行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立により栄養バランスを考慮した食事を提供している ・一緒に盛り付け、嗜好などの会話を行っている ・食事の量や水分の量の変化は記録に取り観察している ・食事に時間や食欲の有無など本人に尋ねながら体調に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・個々に合わせた口腔ケア用品を使用し毎食後歯磨き支援を行っている ・口腔内に変化があれば、歯科医師と連携し往診依頼を行い、必要な口腔ケア用品などの相談もしている。 ・出来る能力に合わせた支援を行っている	それぞれの状況に合わせて口腔ケア用品を使用し毎食後歯磨き支援が行われています。口腔内に変化があれば、歯科医師と連携し往診依頼し、必要な口腔ケア用品の相談もされています。義歯の方は夜間に洗浄され本人に返されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレで排せつする考え方を基本に、その人の排せつリズムをつかみ声を掛けるタイミングを職員側が習慣化させている ・失敗することを無くし自信を無くさないよう配慮している ・プライバシーへの配慮に気遣っている 	チェック表を基に排泄リズムを把握され、最期までトイレで排泄できるよう声掛けをされるタイミングを職員が習慣化され、失敗することなく、利用者が自信をなくさないよう配慮されています。プライバシーに配慮しながら、利用者の状況に応じて、誘導、介助が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、乳製品等を多く取り入れたり、できるだけ自然排便が促されるように努めている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の声かけによりその都度本人の意思を確認している ・本人の意思に合わせて、曜日や時間帯は調節している 	基本的には週2回マンツーマンでゆっくり入浴されています。入浴前には声掛けをし、その都度本人の意思を確認され、本人の意思に合わせて、時間や曜日の調整をされています。無理強いすることなく本人の気持ちを尊重されています。現在リフト浴も導入され、皆さんにゆっくりと湯船につかったの入浴が楽しめるようになっていきます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの体調に合わせて日中活動を支援している ・部屋で休みたいという意思を示された方は、自由に部屋で過ごして頂き、自分の時間を大切にもらっている ・部屋で休んでも、活動の声かけは行い、その都度意思の確認を行っている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を中心に一人ひとりの薬の内容を把握している ・特に薬が変わった場合など、職員会議で副作用の確認やその後の観察の仕方などについて周知を行い変化があれば記録に残し、主治医と情報を共有を図っている 	平日は毎日看護師が勤務されているので、看護師を中心の服薬管理が行われています。薬の変更時には、職員会議で副作用の確認やその後の観察の仕方など周知され、変化があれば記録に残し、主治医に連絡され指示を仰がれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの意思に合わせ、できること、興味のあることなど日々の生活の中で習慣化し支援を行っている ・本を読む楽しみ、食事の準備をする楽しみ、庭の水やりをする習慣などその人に合わせた楽しみ方、役割を支援している 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との自由な外出 ・行ってみたい希望のあるときには、ドライブとして出かけたり、買い物として出かけたりしている ・地域から離れているため、近隣施設と交流をほかり、行事などに参加している 	出掛けたいという要望があれば、ドライブや買い物に出掛けられています。同一法人の近隣施設(特養)の行事にも参加されています。季節の移ろいを感じて頂けるよう花壇の花を見られたり、散歩がてら近隣の喫茶店に出掛けられています。希望があれば家族との自由な外出・外泊もされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出した場合や2週間に1度の移動スーパーの利用は自分で選んで買いものを行っている ・支払いは自分の財布からお金を出し、自分のお金の意識をもってもらっている 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・特にかける時間帯などに制限なく支援している(家族の対応出来る時間の都合に合わせて) ・手紙も頂いた返事の返信の手伝いをしている ・気持ちが文字に繋がらない場合は、書きたい気持ちをきき、文書にした文字を見ながら書けるよう支援してる 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有スペースでありながら、自分の居場所が確保され、自然な形で皆と過ごせる空間に努めている ・冬は寒くないように夏は冷房が効きすぎないように入居者の温度の感じ方に合わせている 	<p>広いリビングスペースになっており、採光も良く、全面床暖房になっており、特に冬は快適に過ごされています。温度管理、換気にも注意されています。廊下などにも飾り物や作品を展示され、季節が感じられるよう工夫されています。それぞれが自分の好きな場所で過ごされています。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・過ごし方は、会話の好きな方、一人の好きな方など性格や関係性に合わせて居場所の工夫をしている 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・しつらえは入所時に家族と一緒に配置を決めている ・持ち物も本人の見慣れた物使い慣れた物などをもってきてもらっている ・本人自身にも配置を聞きながら、落ち着ける場所づくりにしている 	<p>それぞれの個性に合わせたその人らしい部屋になるよう、使い慣れた物やお気に入りの品を持って来て頂かれています。本人にもベッドの配置なども聞きながら動線にも配慮した居心地の良い居室になるよう工夫されています。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの機能に合わせて、使いやすさや動きやすさ、わかりやすさを考え、生活し易いように工夫している ・起き上がりや臥床も個々の機能に合わせて「自分で動きやすい」を本人と一緒に考え工夫している 		